

令和8年度 第2回もの部会「博物館登録制度」研究会
資料整理・環境整備支援事業実施報告書

2026年7月1日
岐阜県博物館協会もの部会

■日時：令和8年6月24日(水) 10:30-17:00

■会場：野外博物館 合掌造り民家園（岐阜県大野郡白川村荻町 2499）

■施設概要

建 造 物：岐阜県重要文化財指定建造物9棟を含む全25棟

資 料 類：白川村に関する民具資料など *一部の資料は白川村教育委員会作成の台帳が付属

設置運営：一般財団法人 白川村緑地資源開発公社 *1972年白川村によって開園、1982年移管



合掌造り民家園内の様子



園内マップ

■経緯

2月6日 民家園学芸員の松田氏が部会に加入、民具の取り扱い等について相談があった

3月24日 R7年度第3回もの部会(オンライン)で民家園に関する研究会の実施を検討

4月13日 長谷もの部会長、現地視察

5月29日 R8年度第1回もの部会(オンライン)で民家園民具資料整理研究会の開催を決定

6月12日 可児協会長、現地視察—「博物館登録制度」について民家園側と情報整理を行う

*研究会テーマを「民具の調書作成」「民具の目録作成」に設定していたが、民家園が博物館登録申請準備中のため「博物館登録制度」および資料整理・環境整備事業に内容変更

6月18日 民家園より岐阜県博物館協会もの部会に環境整備事業支援の依頼

6月24日 もの部会を中心とする協会員13名が参加し、民家園の建造物、民具資料の清掃、および展示資料類の防災展示措置を行い、あわせて「博物館登録制度」に関する研究会、本事業に関する意見交換を実施した

■活動概要

◇対象建造物・資料：東しな家(県指定重要文化財)、民具資料

10時30分 民家園集合

10時40分～12時00分 園内視察、東しな家・民具の現状確認、作業内容打ち合わせ

12時00分～13時00分 昼食

13時00分～15時30分 清掃、資料整理作業

15時40分～17時00分 博物館登録度について研修、意見交換

◇参加者 *敬称略、順不同

- ・民家園：松田仁志(学芸員)、加藤春喜(園長)、他4名
- ・ものの部会：長谷健生(各務原市歴史民俗資料館/部会長)、齋藤智愛(岐阜県美術館/副部会長)、南本有紀(岐阜県博物館)、花井素子(岐阜県現代陶芸美術館)、鈴木恒志(岐阜市歴史博物館)、和歌由花(美濃加茂市民ミュージアム)、水上 空(高山市教育委員会文化財課)、正村美里(個人会員)、久保禎子(個人会員/一宮市生涯学習課学芸員)
- ・協会員、他：藤島夢花(美濃加茂市民ミュージアム)、佐竹祐佳(岐阜県博物館)、可児光生(美濃加茂市民ミュージアム館長/岐阜県博物館協会会長)、恩田知美(本巣市)

1) 民家園 展示・保存環境について

園内、要所施設を松田氏の案内で視察。合掌造りの建物は構造上、虫・獣・汚れの侵入が不可避である。囲炉裏の煙による建屋・資料、資料カードなどへの煤の付着や、雪の影響による屋内の暗さや湿度上昇など民家園が抱える課題が共有された。



中野長治郎家 1階



中野長治郎家 3階

2) 東しな家の清掃作業等

東しな家は1967年、白川村加須良集落の全戸離村後に民家園へ移築された合掌造民家5棟(県指定重要文化財)のうち1棟。19世紀後半典型的な合掌造りで1階・居間を「飛騨加須良生活展」と題し、加須良地域の民具を展示公開中。近年展示替えを行っておらず展示スペース、展示ケース(8台)、民具資料の清掃、整理作業を実施した。隣接する倉庫(オクノデイ)、台所(ミンジャ)の清掃も検討され、倉庫を清掃し、台所については今後の活用方法について検討・意見交換した。

なお2、3階部についても民家園と意見交換を行い、今後清掃と保管品の整理作業が必要と判断した。



東しな家 外観



東しな家「飛騨加須良生活展」展示スペース

■屋内、展示ケース、民具資料清掃について

ケース内には草鞋、木製食器、ランプなど、露出展示台には石臼や桶などを展示。ケースや展示台のホコリを除去し、水拭き後、敷き紙などを交換した。資料類はホコリを除去し、乾拭き、もしくは水拭き。わら製の資料はホコリを除去したのち、エタノール(70%希釈)を吹き付けた布巾で清掃した。床やケース下部は掃除機をかけ、雑巾で水拭きなどを実施。ケース内の紙(障子紙)は新しいものと交換、ランプなどのガラス製の資料は敷紙を除去し、シリコンシートで転倒防止措置を行った。



ケース内清掃と敷紙交換



資料の清掃

■倉庫(オクノデイ)の清掃

オクノデイは合掌造り建築の奥にある客間をさし、長期間倉庫として使用していた。箆笥や織機などの道具、畳などすべてを屋外へ搬出したのち、ほうき、掃除機、雑巾で清掃した。今後、新たな展示スペースや仮収蔵庫などの活用が期待される。



オクノデイから取り出した家具類



オクノデイ清掃作業

3) 博物館登録制度・意見交換

■博物館登録制度について

可児協会長より「博物館登録制度」に関する全国の動きと岐阜県の現状等について説明・報告がなされた。民家園に関しては十分な運営方針が定められており、今後の資料目録の作成や資料整理方針が示されれば問題ないだろうという見解であった。

■活動を振り返って

- ・高山市では民具資料について、業者(ナカシャクリエィティブ)に委託し、目録作成、デジタルデータ化を進めている。また國學院大学教員に依頼し、学生たちが授業として3-4日間調査(11月2日-)を行う。教員:謝金、学生:交通費を支給。参考までに情報提供。
- ・民具保存を最優先とするならば専用収蔵庫建設が望まれる。民家園は「屋外展示」施設で虫・獣との共存前提である。温湿度や虫・獣対策を行い「収蔵・展示スペース」として環境改善ができるのでは。
- ・収蔵庫を市町村所有の学校施設等を転用しているところもあり、白アリや笹などの植物の発生・侵入を課題とする施設もある。
- ・民俗・民具専門の学芸員と一緒に作業でき、専門性の高い資料の取扱い法を学ぶことができた。
- ・館によって使用する清掃道具に違いがあった。前職勤務館では「サッサ」(清掃シート)という製品を使用していたが、キッチンペーパー＋アルコールを使う清掃法を学べた。
- ・今回の参加者は13名(民家園側を除く)であった。もの部会員および民具専門の学芸員を中心としたが、多くの方から強い関心が寄せられた。
- ・参加者の専門分野は多岐にわたり、民具の取り扱いに慣れていない人もいたが、清掃作業であれば日常作業と共通していることが多い。大人数で支援を行うには参加しやすい業務であった。
- ・飛騨地方の博物館では、民具資料の修繕を自分たちで行うこともある。修繕できる方がまだいるため、検討しては。
- ・文化人類学、建築学、民俗学など、多方面の研究者からの「白川郷」への注目の高さ、調査実績の蓄積がある。今後は研究史のまとめや振り返りの時期ではないか。
- ・展示スペース、資料が清潔になり、次のステップ(整理作業等)にすすむきっかけになるのでは。
- ・木造建築のため、照明コード類の漏電などに注意が必要。

■協会・もの部会の今後について

- ・広大な民家園の多業務を少人数の学芸員で行うことは大変。博物館協会がなにかの力になれば。
- ・こうした困りごとを抱える館について、相談窓口・相談方法をフローチャートとして整理し、広く公表を検討しては。
- ・こうした機会は実地訓練としても重要な位置にあるため、長期的・定期的に実施したい。
- ・本事業は民具調査のための準備として清掃作業を実施したが、当初計画であった「民具の調書・台帳作成」や「民具の目録作成」についての研修なども多くの加盟館で要望があると考えられる。民家園や他館での開催も検討しては。
- ・今後も平時・非常時におけるレスキュー活動について検討をおこない、研究話題を募集していく。